

科 目 区 分	共通科目			聴 講	可
授 業 科 目 名	看護学研究方法論Ⅰ（研究過程と研究方法の理解）			科目履修	可
科 目 番 号	MN0001	ク ラ ス 番 号	MN1		
授 業 形 式	講義・演習	必修選択区分	選択		
開 講 時 期	1 年次・前期	単 位	2 単位 30 時間		
科 目 責 任 者	小川妙子	そ の 他			
担 当 教 員	小川妙子 横山京子				
授 業 の 概 要	本研究科は、科学的根拠に基づく実践（Evidence-Based Practice：EBP）の実現に向けた看護学とその教育の充実・発展・革新に資する研究成果を産出することのできる人材育成に必要な科目として、看護学研究方法論Ⅰ（研究過程と研究方法の理解）を提供する。学生は、看護学研究方法論Ⅰ（研究過程と研究方法の理解）を通し、EBP 及び科学的根拠に基づく看護学教育（EBNE：Evidence-Based Nursing Education）の根拠となりうる研究成果を産出するために必要な研究過程と研究方法を理解する。具体的には、看護学研究に関わる学術用語、研究デザインの種類や特徴、データ収集・分析の方法など、研究成果の産出に必要な基礎知識・技術を修得する。また、既存の看護学研究を批判的に精読するために必要な知識の修得を通し、系統的な文献検討に基づく研究計画作成の重要性を理解する。				
学 科 目 的	看護学研究の意義と目的を理解し、研究遂行に必要な基礎知識を修得する。				
学 科 目 標	1. 研究過程と研究方法を説明する。 2. 文献講読を通して学習した内容を学術用語を用いて発表する。 3. 精度の高い研究計画書を作成するための要件を列挙する。 4. 特別研究の課題との関連から研究遂行に必要な基礎知識を修得する必要性と意義を述べる。				
授 業 の 内 容 と 方 法	回	授業内容	授業方法	事前・事後 学習（学習 課題）	担当
	1	研究過程における 献検討の意義と方法	講義	課 題 図 書 『看護研究 一原理と方 法一』の精 読と要約	小川・ 横山
	2	研究過程 －看護と研究，研究過程の概観，研究課題の 選択と仮説	発表・講義		
	3	研究の準備 －文献検討の必要性，理論的枠組みの構築， 仮説の組み立て			
	4	研究デザイン(1) －研究デザインの選択，量的研究デザイン， 量的研究におけるコントロール			
	5	研究デザイン(2) －量的研究デザイン，量・質併用デザイン， 標本抽出			
	6	測定とデータ収集(1) －面接法と質問紙法，尺度，自己報告法			
	7	測定とデータ収集(2) －観察法，生物・物理学的データおよびそ 他のデータ収集法			
	8	測定とデータ収集(3) －測定用具アセスメントのための信頼性・妥 当性			
	9	測定とデータ収集(4) －質的データの分析			
	10	研究データの分析(1) －記述統計，推測統計			
	11	研究データの分析(2)			

		一重回帰，重相関，共分散分析，多重比較分析，因子分析など			
	12	研究データの分析(3) －研究過程におけるコンピュータ活用方法	発表・講義		小川・横山
	13	研究過程におけるコミュニケーション(1) －研究論文の作成，研究論文の評価			
	14	研究過程におけるコミュニケーション(2) －研究成果の活用			
	15	研究計画書の作成方法	講義	レポート	
	■終了後レポートの課題『看護学研究方法論Ⅰを通して学んだこと』 自己の研究課題との関連から、研究遂行に必要な基礎知識を修得する必要性と意義を述べる。				
評価方法	授業への参加状況（20%），発表（50%），終了後レポート（30%）				
参考書 参考文献等	・ Polit, D. F. & Beck, C. T.: Nursing Research: Principles and Methods, Seveth Edition, Lippincott Williams & Wilkins, 2004. ・ Polit, D. F. Beck.(近藤潤子監訳)；看護研究—原理と方法—第2版，医学書院，2010.				
学習相談 助言体制	学生個々の必要性に応じて質問に応じるなどの相談・支援を行う。				
備考	・引き続き看護学研究方法論Ⅱ（研究批評と研究成果の活用）を受講することにより、学習の高い統合レベルを目指すことが可能である。				

科 目 区 分	共通科目		聴 講	可
授 業 科 目 名	看護学研究方法論Ⅱ（研究批評と研究成果の活用）		科目履修	可
科 目 番 号	MN0002	ク ラ ス 番 号	MN1	
授 業 形 式	講義・演習	必修選択区分	選択	
開 講 時 期	1年次・後期	単 位	2単位 30時間	
科 目 責 任 者	小川妙子	そ の 他		
担 当 教 員	小川妙子 山下暢子 中西陽子 廣瀬規代美 齋藤基 巴山玉蓮 吉富美佐江 石川良樹			
授 業 の 概 要	本研究科は、科学的根拠に基づく実践（Evidence-Based Practice：EBP）の実現に向けた看護学とその教育の充実・発展・革新に資する研究成果を産出することのできる人材育成に必要な科目として看護学研究方法論Ⅱ（研究批評と研究成果の活用）を提供する。看護学研究方法論Ⅱ（研究批評と研究成果の活用）を通し、学生は、看護学研究方法論Ⅰ（研究過程と研究方法の理解）で得た知識を前提とし、EBP及び科学的根拠に基づく看護学教育（EBNE：Evidence-Based Nursing Education）の根拠となりうる研究成果を産出するために必要な研究批評と研究成果の活用に必要な知識・技術・態度を理解する。具体的には、質的研究・量的研究の方法、各々の特徴と意義を学習する。学習内容の発表・討論を通し、看護学研究的遂行に必要な知識・技術・態度の共通点・相違点を理解する。また、研究論文の批評を通し、研究成果の活用可能性について検討する。 〔オムニバス方式／全15回〕 （小川妙子／6回） 研究批評と研究成果活用に必要な能力について講義を展開する。また、課題図書『看護研究』の講読演習を通し、探究のレベルに応じた研究計画に必要な知識を提供する。さらに、研究批評の演習において、学生間の発表内容・討論を査定し、補完すべき知識を提供する。 （山下暢子／3回） 課題図書『Naturalistic Inquiry』の講読演習及び講義を通し、自然主義的パラダイムに立脚した方法論を用いた研究の信用性確保に必要な知識を提供する。また、講義を通し、自然主義的パラダイムに立脚した方法論として、看護概念創出法を取り上げ、その特徴と研究の実際及び研究成果活用の具体例を紹介する。 （中西陽子／1回） 講義を通し、内容分析の歴史と特徴、方法論の相違に伴う分析結果の相違、内容分析を適用した研究の遂行に必要な基礎知識を提供し、内容分析を用いた研究と研究成果活用の実例を紹介する。 （廣瀬規代美／1回） 講義を通し、グラウンデッド・セオリーの歴史と特徴、分析方法、グラウンデッド・セオリーを適用した研究の遂行に必要な基礎知識を提供する。また、グラウンデッド・セオリーを用いた研究と研究成果活用の実例を紹介する。 （齋藤 基／1回） 講義を通し、K J法の歴史と特徴、分析方法、K J法を適用した研究の遂行に必要な基礎知識を提供する。また、K J法を用いた研究の実際と研究成果活用の具体例を紹介する。 （巴山玉蓮／1回） 講義を通し、量的研究の種類と特徴、関係探索研究、関連検証研究の遂行に必要な基礎知識及び研究の実例を紹介する。 （吉富美佐江／1回） 講義を通し、測定用具開発研究の遂行に必要な基礎知識を提供し、尺度の開発過程と尺度活用の実例を紹介する。 （石川良樹／1回） 講義を通し、実験研究の特徴、無作為化、実験研究デザインの研究計画、実験研究の長所・短所、実験研究の遂行に必要な基礎知識及び研究の実例を紹介する。			
学 科 目 的	研究方法論の特徴を学習し、研究遂行に必要な知識・技術・態度を理解する。			
学 科 目 標	1. 既存の研究方法論の特徴を理解する。 2. 研究方法論の学習を通し、研究成果の産出・活用に必要な知識を修得する。 3. 研究批評を通し、研究成果の活用可能性を説明する。			

授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）	担当
	1	研究批評と研究成果活用に必要な能力	講義	課題図書 Diers, D『看護研究』	小川
	2	探究のレベルと研究計画(1) 因子探索研究と関係探索研究の特徴	発表・講義		
	3	探究のレベルと研究計画(2) 関連検証研究と因果仮説検証研究の特徴			
	4	探究のレベルと研究計画(3) 規定検証研究と測定法検証研究の特徴			
	5	質的研究の基礎知識(1) 自然主義的パラダイム，信用性	発表・講義	課題図書 『Naturalistic Inquiry』の精読と要約	山下
	6	質的研究の基礎知識(2) 自然主義的パラダイムの立脚した方法論を用いた研究の信用性確保の実際	講義		
	7	質的研究の実際(1) 内容分析の手法を用いた研究の実際	講義	各研究方法論の関連図書の精読	中西
	8	質的研究の実際(2) グラウンデッド・セオリーを用いた研究の実際			廣瀬
	9	質的研究の実際(3) K J 法を用いた研究の実際			齋藤
	10	質的研究の実際(4) 看護概念創出法を用いた研究の実際			山下
	11	量的研究の実際(1) 関係探索研究・関連検証研究の実際			巴山
	12	量的研究の実際(2) 測定用具開発研究の実際			吉富
	13	実験研究の実際			石川
	14	研究批評(1) 国内文献を選択し、授業を通して得た知識を活用し、研究成果の活用も含めて批評する。	発表・討論	国内文献の精読 研究批評の内容の要約	小川
	15	研究批評(2) 国内文献を選択し、授業を通して得た知識を活用し、研究成果の活用も含めて批評する。			
■終了後レポートの課題『看護学研究方法論Ⅱを通して学んだこと』 自己の研究課題との関連から研究批評と成果活用に必要な知識を修得する必要性と意義を述べる。					
評価方法	発表（40%），討論（20%），終了後レポート（40%）				
参考書 参考文献等	・ Diers, D：看護研究―ケアの場で行うための方法論―，日本看護協会出版会，1998。 ・ Lincoln,Y.S. & Guba,E.G.: Naturalistic Inquiry, Sage Publications, 1985。 ・ 舟島なをみ：質的研究への挑戦 第2版，医学書院，2007。 ・ 舟島なをみ：看護教育学研究―発見・創造・証明の過程―，第2版，医学書院，2010。 ・ Polit, D. F. & Beck, C. T.: Nursing Research: Principles and Methods, Seveth Edition, Lippincott Williams & Wilkins, 2004。				
学習相談 体制	学生個々の必要性に応じて質問に応じるなどの相談・支援を行う。				
備考	看護学研究方法論Ⅰ（研究過程と研究方法の理解）に引き続き受講することにより、学習の高い統合レベルを目指すことが可能である。				

科 目 区 分	共通科目			聴 講	可
授 業 科 目 名	専門職教育展開論Ⅰ（カリキュラム編成の基礎）			科目履修	可
科 目 番 号	MN0003	ク ラ ス 番 号	MN1		
授 業 形 式	演習・講義	必修選択区分	選択		
開 講 時 期	1 年次・前期	単 位	2 単位 60 時間		
科 目 責 任 者	山下暢子	そ の 他			
担 当 教 員	山下暢子 松田安弘				
授 業 の 概 要	本研究科は、高等教育としての看護学教育の特徴と課題に精通し、研究成果の教材化・授業計画案作成・教授方略等の授業展開に必要な知識・技術、その基盤となる看護教育評価・看護学教育カリキュラム編成の知識・技術、教育倫理に関する知識・技術を駆使し、質の高い教育を展開することのできる人材育成に必要な科目として、専門職教育展開論Ⅰ（カリキュラム編成の基礎）を提供する。科学的根拠に基づく実践（Evidence-Based Practice：EBP）の実現に向けては、科学的根拠に基づく看護学教育（EBNE：Evidence-Based Nursing Education）が必要不可欠である。専門職教育展開論Ⅰ（カリキュラム編成の基礎）を通し、学生は、EBNE 展開の基礎となる知識を修得する。具体的には、看護教育評価・看護学教育カリキュラム編成の基礎理論を学習し、看護学教員や看護職者として教育的機能を果たすための基盤となる知識を獲得する。				
学 科 目 的	科学的根拠に基づく看護学教育（EBNE：Evidence-Based Nursing Education）に必要な教育過程展開や教育評価に必要な基礎理論、カリキュラム編成の基礎知識を理解する。				
学 科 目 標	1. 保健医療専門職者が教育的機能を果たすために必要な教育学の基礎理論を理解する。 2. 保健医療専門職者が教育活動を展開するために必要な基本的知識を修得する。 3. 1.2.を前提とし、カリキュラム編成の過程を理解する。				
授 業 の 内 容 と 方 法	回	授業内容	授業方法	事前・事後 学習（学習 課題）	担当
	1	保健医療専門職者が教育的機能を果たす意義と必要性	講義		山下 松田
	2	教育過程展開の基礎理論(1) －構造の重要性	発表・討議	課 題 図 書 『教育の過程』の精読 と要約	山下
	3	教育過程展開の基礎理論(2) －学習のためのレディネス			
	4	教育過程展開の基礎理論(3) －直観的思考と分析的思考			
	5	教育過程展開の基礎理論(4) －学習のための動機付け、教具			
	6	教育過程展開の基礎理論(5) －教育過程展開の基礎理論を活用した授業の実際	講義		
	7	教育評価の基礎知識(1) －教育と計画	発表・討議	課 題 図 書 『看護学教育における 講義・演習・実習の 評価』の精読と要約	松田
	8	教育評価の基礎知識(2) －教授過程における評価の利用			
	9	教育評価の基礎知識(3) －認知的、情意的教育目標に関する評価技法			
	10	教育評価の基礎知識(4) －評価システム			
	11	教育評価の基礎知識(5) －教育評価の基礎知識を活用した授業展開	講義		
	12	カリキュラム編成の基礎理論(1) －カリキュラムの作成過程、方向づけ段階－	発表・討議	課 題 図 書 『看護教育カリキュラ	山下
	13	カリキュラム編成の基礎理論(2)			

		ー形成段階・評価段階ー		ムーその作成過程』の精読と要約	
	14	カリキュラム編成の基礎理論(3) ーカリキュラム過程のアセスメント、学士課程に編入する学生としての看護師あるいは准看護師ー			
	15	カリキュラム編成の基礎理論(4) ーカリキュラム編成の基礎理論を活用した大学・大学院設置の実際	講義		
	■終了後レポートの課題『専門職教育展開論Ⅰを通して学んだこと』 保健医療専門職者として教育的機能を果たすという観点から、自己の課題を論述する。				
評価方法	発表（40%）、討議（20%）、終了後レポート（40%）				
参考書 参考文献等	・J.S.ブルーナー：教育の過程，岩波書店，1986。 ・舟島なをみ監訳：看護学教育における講義・演習・実習の評価，医学書院，2009。 ・G.トレス他：看護教育カリキュラムーその作成過程ー，医学書院，1998。 ・B.S.ブルーム他：教育評価法ハンドブック，第一法規出版，1979。 ・杉森みどり，舟島なをみ：看護教育学 第4版，医学書院，2006。				
学習相談 助言体制	学生個々の必要性に応じて質問に応じるなどの相談・支援を行う。				
備考	・診療放射線学研究科と共通科目 ・引き続き専門職教育展開論Ⅱ（カリキュラム編成の実際）を受講することにより、学習の高い統合レベルを目指すことが可能である。				

科目区分	共通科目		聴講	可	
授業科目名	専門職教育展開論Ⅱ（カリキュラム編成の実際）		科目履修	可	
科目番号	MN0004	クラス番号	MN 1		
授業形式	演習	必修選択区分	選択		
開講時期	1年次・後期	単 位	2単位 60時間		
科目責任者	松田安弘	そ の 他			
担当教員	松田安弘 山下暢子				
授業の概要	本研究科は、高等教育としての看護学教育の特徴と課題に精通し、研究成果の教材化・授業計画案作成・教授方略等の授業展開に必要な知識・技術、その基盤となる看護教育評価・看護学教育カリキュラム編成の知識・技術、教育倫理に関する知識・技術を駆使し、質の高い教育を展開することのできる人材育成に必要な科目として、専門職教育展開論Ⅱ（カリキュラム編成の実際）を提供する。科学的根拠に基づく実践（Evidence-Based Practice：EBP）の実現に向けては、科学的根拠に基づく看護学教育（EBNE：Evidence-Based Nursing Education）が必要不可欠である。専門職教育展開論Ⅱ（カリキュラム編成の実際）を通し、学生は、専門職教育展開論Ⅰ（カリキュラム編成の基礎）の既習内容を活用し、EBNEの展開に必要な技術を修得する。具体的には、各グループを担当する教員（松田、山下）の支援・助言を受けながら、グループワークを展開する。仮想大学の設置計画の作成、カリキュラム編成、模擬授業の展開を通し、獲得した知識・技術を基礎・卒後・継続教育及び患者教育にどのように活用できるか、自己の課題に引きつけて論述する。				
学 科 目 的	カリキュラム編成・授業展開に必要な知識・技術を実践的に展開する。				
学 科 目 標	1. 高等教育におけるカリキュラム編成・運用の方法を具体的に説明する。 2. 教育学の理論を活用した模擬授業を展開し、保健医療専門職教育のあり方を論述する。 3. 1.2.に基づき、保健医療専門職者としての教育的機能を発揮するための自己の課題を述べる。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後 学習（学習 課題）	担当
	1	グループの編成、役割分担、仮想大学設置の 必要性について討議	グルー プワ ーク	カリキュ ラム編成に必 要な基礎知 識の確認	松田 山下
	2	カリキュラム編成：方向づけ段階① ー教育理念、教育目的、卒業生の特性の明確 化・成文化			
	3	カリキュラム編成：方向づけ段階② ー教育理念、教育目的、卒業生の特性の用語 解作成，理論的枠組みの作成			
	4	カリキュラム編成：方向づけ段階③ ー内容の諸要素の抽出			
	5	カリキュラム編成：方向づけ段階④ーカリキ ュラム軸の抽出			
	6	第1回 成果発表と討議	発表・討議	発表準備	
	7	カリキュラム編成：形成段階① ーカリキュラムデザインの決定	グルー プワ ーク	カリキュ ラム編成に必 要な基礎知 識の確認	
	8	カリキュラム編成：形成段階② ーレベル目標の設定			
	9	カリキュラム編成：形成段階③ ー科目目標の設定			
	10	第2回 成果発表と討議	発表・討議	発表準備	
	11	カリキュラム編成：機能段階① ー授業設計①：テーマの決定	グルー プワ ーク	授業設計に 必要な基礎 知識の確認	
	12	カリキュラム編成：機能段階②			

		－授業設計②：目標の分析			
	13	カリキュラム編成：機能段階③ －授業設計③：授業案の作成			
	14	カリキュラム編成：機能段階④ －授業設計④：教材作成と模擬授業			
	15	第3回 成果発表と討議	発表・討議	発表準備	
■終了後レポートの課題『専門職教育展開論Ⅱを通して学んだこと』 保健医療専門職者として教育的機能を果たすという観点から、自己の課題を論述する。					
評価方法	グループワークの参加状況(20%), 成果発表(20%), 討議(20%), 終了後レポート(40%)				
参考書 参考文献等	・J.S.ブルーナー：教育の過程，岩波書店，1986. ・B.S.ブルーム他：教育評価法ハンドブック，第一法規出版，1979. ・G.トレス他：看護教育カリキュラムーその作成過程ー，医学書院，1998. ・杉森みど里，舟島なをみ：看護教育学 第4版，医学書院，2006.				
学習相談 助言体制	・学生の必要性に応じて質問に応じるなどの相談・支援を行う。				
備考	・診療放射線学研究科と共通科目 ・診療放射線学研究科生が受講する場合は、2学部統合カリキュラムを設定し学習する。 ・専門職教育展開論Ⅰ（統合カリキュラム編成の基礎）に引き続き受講することにより、学習の高い統合レベルを目指すことが可能である。				

科 目 区 分	共通科目		聴 講	可	
授 業 科 目 名	研究と倫理		科目履修	可	
科 目 番 号	MN0005	ク ラ ス 番 号	MN 1		
授 業 形 式	講義・演習	必修選択区分	選択		
開 講 時 期	1 年次・前期・集中	単 位	2 単位 30 時間		
科 目 責 任 者	横山京子	そ の 他			
担 当 教 員	横山京子 中西陽子 森川功				
授 業 の 概 要	本研究科は、科学的根拠に基づく実践（Evidence-Based Practice：EBP）の実現に向けた看護学とその教育の充実・発展・革新に資する研究成果を産出することのできる人材育成に必要な科目として、研究と倫理を提供する。研究と倫理を通し、学生は、EBP 及び科学的根拠に基づく看護学教育（EBNE：Evidence-Based Nursing Education）の根拠となりうる研究成果を産出する過程において必要となる倫理的態度を理解する。具体的には、人権擁護の重要性の理解を前提とし、研究過程に生じやすい倫理的問題を確認し、その回避に必要な知識・技術を習得する。また、研究過程において倫理的感受性を継続的に高める必要性を認識する。 〔オムニバス方式/全 15 回〕 （森川功/ 5 回） 講義を通し、保健医療に関わる研究を計画・遂行する際の基礎となる医療倫理及び看護倫理の原則ならびに、バイオエシックス（生命倫理学）の基本原則を具体的に解説する。 （横山京子/ 2 回 中西陽子/ 2 回 合同 6 回） 講義を通し、人権擁護が重視されるようになった背景や主な出来事を紹介するとともに、研究倫理の用語解説、人権擁護のための基本指針、保健医療における研究倫理に関わる基礎知識を提供する。また、演習を通し、学生が研究過程に生じやすい倫理的問題の抽出、問題回避に向けた提案ができるよう支援・助言する。成果発表・討議内容を査定し、補完すべき知識を提供する。				
学 科 目 的	人権擁護の重要性の理解を前提とし、研究過程に生じやすい倫理的問題を確認し、その回避に必要な知識、技術を習得する。これを通し、研究過程において倫理的感受性を継続的に高める必要性を認識する。				
学 科 目 標	1. 倫理学の基礎知識を用いて、研究過程に生じやすい倫理的問題を説明する。 2. 研究批評を通して、研究対象者への倫理的配慮の実際と必要な手続きを述べる。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）	担当
	1	課題図書「悪魔の飽食」の批評	成果発表・討議	課題図書の精読・批評	森川
	2	倫理理論と種々の倫理原則－直観主義，義務尊重主義，結果尊重主義，権利重視の倫理	講義	毎回、学習課題を提示	中西
	3	バイオエシックスの基本原則(1) －侵害回避の原則，恩恵の原則			
	4	バイオエシックスの基本原則(2) －自律の原則，公正の原則			
	5	生命の神聖さ（SOL）と生の質（QOL）			
	6	保健医療における研究倫理(1) －人権擁護が求められるようになった社会的背景と主な出来事			
	7	保健医療における研究倫理(2) －人権擁護の指針と用語の解説	グループワーク	テーマに応じた情報収集	横山 中西
	8	研究過程に生じやすい倫理的問題(1)			
	9	研究過程に生じやすい倫理的問題(2)			
	10	研究過程に生じやすい倫理的問題(3)	成果発表	発表準備	

	11	個人情報保護と研究倫理	講義	毎回、学習課題を提示	中西
	12	研究批評のための基礎知識			横山
	13	研究論文の精読・研究批評による倫理的問題の抽出	グループワーク	課題研究論文の精読・批評	横山 中西
	14	研究論文の精読・研究批評による倫理的問題の抽出			
	15	研究論文の概要・研究批評と倫理的問題の回避に向けた具体案の提示	成果発表	発表準備	横山 中西
■終了後レポートの課題『研究と倫理を通して学んだこと』 保健医療専門職者として人権を擁護しながら研究を遂行するという観点から、自己の課題を論述する。					
評価方法	グループワークの参加状況 (20%), 成果発表 (20%), 討議 (20%), 終了後レポート (40%)				
参考書 参考文献等	・森村誠一：悪魔の飽食 ・遠藤周作：海と毒薬 ・米国科学アカデミー編；池内了訳：科学者をめざす君たちへー科学者の責任ある行動とは ・フランクフルト・ヴィクトール・E：夜と霧 ・宮坂道夫：医療倫理学の方法 原則・手順・ナラティブ（第2版） ・ドローレス・ドゥーリー，ジョーン・マッカーシー；坂川雅子訳：看護倫理 I				
学習相談 助言体制	学生個々の必要性に応じて質問に応じるなどの相談・支援を行う。				
備考	・受講者は課題図書『悪魔の飽食』を精読し、受講する。 ・診療放射線学研究科と共通科目 ・夏季集中				

科 目 区 分	共通科目		聴 講	可	
授 業 科 目 名	教育と倫理		科目履修	可	
科 目 番 号	MN0006	ク ラ ス 番 号	MN 1		
授 業 形 式	講義・演習	必修選択区分	選択		
開 講 時 期	1 年次・後期・集中	単 位	2 単位 30 時間		
科 目 責 任 者	横山京子	そ の 他			
担 当 教 員	横山京子 中西陽子				
授 業 の 概 要	本研究科は、高等教育としての看護学教育の特徴と課題に精通し、研究成果の教材化・授業計画案作成・教授方略等の授業展開に必要な知識・技術、その基盤となる看護教育評価・看護学教育カリキュラム編成の知識・技術、教育倫理に関する知識・技術を駆使し、質の高い教育を展開することのできる人材育成に必要な科目として、教育と倫理を提供する。教育倫理とは、教育において対象者の人権を擁護するための道徳的原則である。教育と倫理の授業を通して学生は、科学的根拠に基づく看護学教育（EBNE：Evidence-Based Nursing Education）の展開過程において必要となる倫理的態度を理解する。具体的には、人権擁護の重要性の理解を前提とし、教育過程に生じやすい倫理的問題を確認し、その回避に必要な知識、技術を習得する。また、教育過程において倫理的感受性を継続的に高める必要性を認識する。 〔オムニバス方式／全 15 回〕 （横山京子/5 回 中西陽子/4 回 合同 6 回） 講義を通し、教育における人権擁護が重視されるようになった背景や主な出来事を紹介するとともに、教育倫理の現状、教育における人権擁護の基本指針など、教育倫理に関わる基礎知識を提供する。また、演習を通し、学生が教育過程に生じやすい倫理的問題の抽出、問題回避に向けた提案ができるよう支援・助言する。				
学 科 目 的	人権擁護の重要性の理解を前提とし、教育過程に生じやすい倫理的問題を確認し、その回避に必要な知識、技術を習得する。これを通し、教育過程において倫理的感受性を継続的に高める必要性を認識する。				
学 科 目 標	1. 倫理学の基礎知識を用いて、教育過程に生じやすい倫理的問題を説明する。 2. 教育評価を通して、教育対象への倫理的配慮の実際と必要な手続きを述べる。				
授 業 の 内 容 と 方 法	回	授業内容	授業方法	事前・事後 学習（学習 課題）	担当
	1	保健医療における人権と倫理	講義	毎回、学習 課題を提示	中西
	2	保健医療職の職業倫理			中西
	3	教育者の倫理的責任			中西
	4	教育過程における倫理(1) －人権擁護の指針と用語の解説			横山
	5	教育過程における倫理(2) －全米教育協会（NEA）の倫理綱領		倫理綱領の 翻訳	横山
	6	教育過程における倫理(3) －教育活動と著作権		毎回、学習 課題を提示	横山
	7	教育過程における倫理(4) －教育倫理の現状			横山
	8	教育過程に生じやすい倫理的問題(1)	グループワ ーク	テーマに応 じた情報収 集	中西 横山
	9	教育過程に生じやすい倫理的問題(2)			
10	教育過程に生じやすい倫理的問題(3)	成果発表	発表準備	中西 横山	

	11	個人情報保護と教育倫理	講義	毎回、学習課題を提示	中西
	12	文献精読のための基礎知識			横山
	13	文献精読による倫理的問題の抽出	グループワーク	研究論文の精読	中西 横山
	14	文献精読による倫理的問題の抽出	グループワーク		
	15	文献の概要説明・批評と倫理的問題の回避に向けた具体案の提示	成果発表	発表準備	
■終了後レポートの課題『教育と倫理を通して学んだこと』 人権を擁護しながら教育を遂行するという観点から、自己の課題を論述する。					
評価方法	グループワークの参加状況 (20%), 成果発表 (20%), 討議 (20%), 終了後レポート (40%)				
参考書 参考文献等	・ NEA : Code of Ethics of the Education Profession ・ Oermann, MH. (舟島なをみ監訳) : 看護学教育における講義・演習・実習の評価, 「14.社会的、倫理的、法的問題」及び「付録 B」, 医学書院, 2001. ・ 木下一雄 : 教育倫理学, 東洋学出版社, 1953.				
学習相談 助言体制	学生個々の必要性に応じて質問に応じるなどの相談・支援を行う。				
備考	・ 診療放射線学研究科と共通科目 ・ 春季集中				

科 目 区 分	共通科目		聴 講	可	
授 業 科 目 名	看護政策管理論		科目履修	可	
科 目 番 号	MN0007	ク ラ ス 番 号	MN1		
授 業 形 式	講義・演習	必修選択区分	選択		
開 講 時 期	1 年次・前期	単 位	2 単位 30 時間		
科 目 責 任 者	巴山玉蓮	そ の 他			
担 当 教 員	巴山玉蓮				
授 業 の 概 要	本研究科は、科学的根拠に基づく実践（Evidence-Based Practice：EBP）の実現に向けた看護学とその教育の充実・発展・革新に資する研究成果を政策に反映することのできる人材育成に必要な科目として、看護政策管理論を提供する。看護政策管理論を通し、学生は、保健医療システムにおいて質の高い看護を提供するための看護政策的・管理的視点を裏付ける基礎知識や理論を習得する。また、看護政策管理に関する看護学研究の現状を確認し、EBP の実現および新たな研究成果を産出する意義を検討する。				
学 科 目 的	看護実践、教育実践における問題を政策的・管理的側面から検討し、その解決に必要なエビデンスの探索、分析、統合、適用を検討する。この過程を通し、看護政策管理分野の研究の現状と活用可能なエビデンスの特徴および産出の必要性を確認する。				
学 科 目 標	1. 保健医療システムの創造・発展・変革を担うための基盤となる知識を得る。 2. 看護政策・管理に関連する基本的知識を理解する。 3. 看護政策管理に関する看護学研究の現状を討論する。 4. EBP の実現および新たな研究成果を産出する意義について意見を述べる。				
授 業 の 内 容 と 方 法	回	授業内容	授業方法	事前・事後 学習（学習 課題）	担当
	1	社会システムにおける保健医療システム －社会システムとは、保健医療システムとは	講義	毎回、学習 課題を提示	巴山
	2	日本における保健医療システムと医療提供 の特徴			
	3	アメリカにおける保健医療システムと医療 提供の特徴			
	4	保健医療システムにおける医療政策の決定 過程とその要因(1)－政策とは、政策過程と は、日本における決定過程			
	5	保健医療システムにおける医療政策の決定 過程とその要因(2)－イギリス・OECD 諸国 の決定過程			
	6	看護政策・管理に関連する基礎知識と理論 (1)－保健医療システムを機能させるための 組織：組織とは、組織成立の条件、組織構造 の原則と機能			
	7	看護政策・管理に関連する基礎知識と理論 (2)－組織の成立・存続・発展のための管理 ：管理とは、管理の要素および理論、管理の 過程			
	8	看護政策・管理に関連する基礎知識と理論 (3)－看護職者を取り巻く制度と政策① ：看護関連法規の変遷、看護職者に関連する 法律の成立と政策過程			

	9	看護政策・管理に関連する基礎知識と理論 (4)－看護職者を取り巻く制度と政策②：政策過程に看護職者が参画する意味			
	10	既習の知識から見た現状の問題と問題解決への応用 1) 看護実践・教育実践における自らの問題意識をグループ討議により明確にする。	演習	看護実践・教育実践上の問題を焦点化する	
	11	2) 明確になった問題に関連する研究論文を検索し、精読する。		関連文献の精読と内容の要約	
	12	3) 諸外国との比較も含め、研究の特徴と意義、限界をグループで討論する。			
	13	4) 3) を基に、現在の問題解決に向けた適用の可能性をグループで検討する。			
	14	5) 4) で検討した内容を個別に整理し成果発表する。	成果発表	発表準備	
	15	6) 5) を基に、保健医療システムの創造・発展・変革、及び、新たな研究成果を産出する意義について全体で検討する。	全体討議	発表内容に対する自己評価	
■ 終了後レポートの課題『看護政策管理論を通して学んだこと』 看護政策・看護管理に関する問題の解決に向けた提言を論述する。					
評価方法	成果発表とその資料（40%），終了後レポート（60%）				
参考書 参考文献等	Janice Rider Ellis, Celia Love Hartley: Nursing in Today's World Trends, Issues & Managment, Lippincott Williams & Wilkins 見藤隆子、石田昌宏、大串正樹他：看護職者のための政策過程，日本看護協会出版会，2007 OECD 編：世界の医療制度改革，明石書店，2005				
学習相談 助言体制	学生個々の必要性に応じて質問に応じるなどの相談・支援を行う。				
備考					

科 目 区 分	専門科目		聴 講	不可
授 業 科 目 名	実践看護学構築論Ⅰ（看護理論と看護実践）		科目履修	不可
科 目 番 号	MN0008	ク ラ ス 番 号	MN1	
授 業 形 式	演習・講義	必修選択区分	選択必修	
開 講 時 期	1年次・前期	単 位	2単位 60時間	
科 目 責 任 者	齋藤基	そ の 他		
担 当 教 員	肥後すみ子 行田智子 横山京子 田村文子 中西陽子 小川妙子 齋藤基 巴山玉蓮			
授 業 の 概 要	本研究科は、科学的根拠に基づく実践（Evidence-Based Practice：EBP）の実現に向けた看護学とその教育の充実・発展・革新に意義を見出すことのできる人材育成に必要な科目として、実践看護学構築論Ⅰ（看護理論と看護実践）を提供する。学生は、実践看護学構築論Ⅰ（看護理論と看護実践）を通し、EBPの根拠として既に活用されている看護学及び関連学問領域の理論・主要概念への理解を深める。また、これらの理論や概念を用い、看護実践上の問題を分析することを通し、既存の理論や概念の活用可能性と限界を理解する。このことを通し、EBPの実現に向け、看護学を充実・発展・革新させていくことの必要性を理解する。学生は、自己の興味・関心に基づき担当教員を選択し、グループを形成する。授業は、形成されたグループ毎に展開する。教員は、看護技術学、生涯発達看護学（母胎期、乳幼児期・学童期、思春期、成人期、老年期）、地域健康看護学、看護政策管理学という各々が専門とする内容を織り込みながら担当グループの授業を展開する。			
	（肥後すみ子）			
	講義を通して、看護実践に活用可能な主要概念（人間、環境、健康、ニード、安全、安楽、自立など）及び看護理論（ヘンダーソン、キング、ウィーンデンバック、ベナーなど）、関連領域の理論（マズローなど）を紹介する。また、それらの主要概念や理論を用いた研究論文の精読・批評を支援・助言する。			
	（行田智子）			
	講義を通して、母胎期にある人々を対象とした看護実践に活用可能な主要概念（ヘルスプロモーション、ウェルネス）及び看護理論（オレム）、関連領域の理論（ゲゼルの発達理論）を紹介する。また、それらの主要概念や理論を用いた研究論文の精読・批評を支援・助言する。			
	（横山京子）			
	講義を通して、乳幼児期・学童期にある人々を対象とした看護実践に活用可能な主要概念（国際生活機能分類）及び看護理論（ヘンダーソン、キング）、関連領域の理論（エリクソン、ピアジェ、ボウルビー、ハビガーストの発達理論など）を紹介する。また、それらの主要概念や理論を用いた研究論文の精読・批評を支援・助言する。			
	（田村文子）			
	講義を通して、思春期にある人々、あるいは、精神疾患を持つ人々を対象とした看護実践に活用可能な主要概念（自己概念、アイデンティティなど）及び看護理論（ペブロー、ロイなど）、関連領域の理論（エリクソン、レビンソンの発達理論など）を紹介する。また、それらの主要概念や理論を用いた研究論文の精読・批評を支援・助言する。			
	（中西陽子）			
	講義を通して、成人期にある人々を対象とした看護実践に活用可能な主要概念（ライフスタイルなど）及び看護理論（オレム、ロイなど）、関連領域の理論（死の受容、ストレス理論、エリクソン・レビンソンの発達理論など）を紹介する。また、それらの主要概念や理論を用いた研究論文の精読・批評を支援・助言する。			
	（小川妙子）			
	講義を通して、老年期にある人々を対象とした看護実践に活用可能な主要概念（国際生活機能分類、セルフケア）及び看護理論、関連領域の理論（エイジズム、エリクソン・ハビガーストの発達理論など）を紹介する。また、それらの主要概念や理論を用いた研究論文の精読・批評を支援・助言する。			
	（齋藤基）			
	講義を通して、地域に暮らす人々を対象とした看護実践に活用可能な主要概念（ヘルスプロモーション、ソーシャルサポート）及び看護理論（コミュニティ・アズ・パートナーモデル）、関連領域の理論を紹介する。また、それらの主要概念や理論を用いた研究論文の精読・批評を支援・助言する。			
（巴山玉蓮）				
講義を通して、看護を提供するあらゆる場にある人々や看護職を対象とした看護実践ならびに看護政策管理に活用可能な主要概念（ポリシー、ストラテジー、マネージメント、イノベーションなど）及び看護理論（ナイチンゲール、オレム、ベナー）、関連領域の理論（リーダーシップ論、人的資源論、近代組織論など）を紹介する。また、それらの主要概念や理論を用いた研究論文の精読・批評を支援・助言する。				

学 科 目 的	科学的根拠に基づく実践（Evidence-Based Practice：EBP）の前提となる諸理論と概念を学習し、看護実践の質向上に向けて新たに必要となる理論・概念を考察する。				
学 科 目 標	1. 看護実践上の課題解決に活用可能な理論・概念の特徴を説明する。 2. 既存の理論・概念を用いて、看護実践上の問題を明らかにする。 3. 1.2.を通し、実践上の問題解決過程に理論を適用する意義と課題を述べる。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）	担当
	1	看護実践の基盤となる看護理論の特徴と機能(1)	講義	関心のある理論の学習	グループのテーマにより担当教員を決定する
	2	看護実践の基盤となる看護理論の特徴と機能(2)	発表・講義	理論選択・精読	
	3	看護実践の基盤となる看護理論の特徴と機能(3)			
	4	看護理論を活用した看護学研究(1)	成果発表・討議	研究論文の選択・精読	
	5	看護理論を活用した看護学研究(2)			
	6	看護実践の基盤となる関連学問領域の理論の特徴と機能(1)	発表・講義	理論選択・精読	
	7	看護実践の基盤となる関連学問領域の理論の特徴と機能(2)			
	8	看護実践の基盤となる関連学問領域の理論の特徴と機能(3)			
	9	関連学問領域の理論を活用した看護学研究(1)	成果発表・討議	研究論文の選択・精読・発表	
	10	関連学問領域の理論を活用した看護学研究(2)			
	11	理論に基づく看護実践上の問題解決(1) ：問題の明確化	経過報告・討議	看護実践において現実 に直面した課題を看護 理論に基づき抽象化し 解釈する	
	12	理論に基づく看護実践上の問題解決(2) ：適用する理論の選択			
	13	理論に基づく看護実践上の問題解決(3) ：プロセスレコードの作成			
	14	理論に基づく看護実践上の問題解決(4) ：分析結果			
	15	理論に基づく看護実践上の問題解決(5) ：最終報告	最終報告・討議	問題解決の方法の明確化と評価	
	■終了後レポートの課題『実践看護学構築論Ⅰ（看護理論と看護実践）を通して学んだこと』 実践上の問題解決過程に看護理論及び関連学問領域の理論を適用する意義と適用に向けた課題を述べる。				
評価方法	経過報告・成果発表（40%），討議（20%），終了後レポート（40%）				
参 考 書 参 考 文 献 等					
学 習 相 談 助 言 体 制	学生個々の必要性に応じて質問に応じるなどの相談・支援を行う。				
備 考	実践看護学を主専攻とする学生は必ず履修する。				

科 目 区 分	専門科目		聴 講	不可	
授 業 科 目 名	実践看護学構築論Ⅱ（看護学の革新と看護研究）		科目履修	不可	
科 目 番 号	MN0009	ク ラ ス 番 号	MN1		
授 業 形 式	演習	必修選択区分	選択必修		
開 講 時 期	1 年次・後期	単 位	2 単位 60 時間		
科目責任者	齋藤基	そ の 他			
担 当 教 員	行田智子 横山京子 田村文子 中西陽子 小川妙子 齋藤基 肥後すみ子 巴山玉蓮 河内美江 樋貝繁香 廣瀬規代美 大澤真奈美 原美弥子 飯田苗恵				
授 業 の 概 要	本研究科は、科学的根拠に基づく実践（Evidence-Based Practice：EBP）の実現に向けた看護学とその教育の充実・発展・革新に意義を見出すことのできる人材育成に必要な科目として、実践看護学構築論Ⅱ（看護学の革新と看護研究）を提供する。実践看護学構築論Ⅱ（看護学の革新と看護研究）を通し、学生は、実践看護学構築論Ⅰ（看護理論と看護実践）で得た知識を前提とし、EBP の実現に向け、あらたに産出する必要がある理論・知識・技術を模索する。このことを通し、EBP の実現に向け、看護学を充実・発展・革新させていくことの必要性を理解する。具体的には、特別研究のテーマとの関連から EBP に活用可能な海外の看護学研究を探索・精読し、研究批評を通して今後あらたに必要となる看護学研究を焦点化する。実践看護学構築論Ⅱにおいて、教員各々は、特別研究指導を担当する学生を対象に授業を提供する。				
学 科 目 的	特別研究のテーマとの関連から海外の看護学研究を探索・精読し、科学的根拠に基づく実践（Evidence-Based Practice：EBP）の実現に向け、今後あらたに必要となる看護学研究を焦点化する。				
学 科 目 標	1. 海外の看護学研究を選択し、批判的に精読する。 2. 選択した看護学研究のデザイン、概念枠組み及び研究方法論などを検討し、特別研究を遂行するために必要な知識を修得する。 3. 1.2.を通して、特別研究の課題を焦点化する。 4. 国際学会への参加の基盤となる英語力を修得する。				
授 業 の 内 容 と 方 法	講読した海外の看護学研究に用いられている学術用語、研究方法、研究内容等を学習成果として資料に要約し、発表する。看護学研究の概念枠組みと研究方法論、今後、必要とされる看護学研究の観点から討論を展開する。				
	回	授業内容	授業方法	事前・事後 学習（学習 課題）	担当
	1	講読文献の理解、研究批評(1)	発表・討論	特別研究との 関連づけて文献を選 択・精読する	特 別 研 究 指 導 を 担 当 する 教 員
	2	講読文献の理解、研究批評(2)			
	3	講読文献の理解、研究批評(3)			
	4	講読文献の理解、研究批評(4)			
	5	講読文献の理解、研究批評(5)			
	6	講読文献の理解、研究批評(6)			
	7	講読文献の理解、研究批評(7)			
	8	講読文献の理解、研究批評(8)			
	9	講読文献の理解、研究批評(9)			
	10	講読文献の理解、研究批評(10)			
	11	講読文献の理解、研究批評(11)			
	12	講読文献の理解、研究批評(12)			
	13	講読文献の理解、研究批評(13)			
	14	講読文献の理解、研究批評(14)			
	15	講読文献の理解、研究批評(15)			

	■終了後レポートの課題『実践看護学構築論Ⅱ（看護学の革新と看護研究）を通して学んだこと』 15回を通して講読した文献を再検討し、研究批評の内容に基づき、今後必要となる看護学研究の特徴を述べる。
評価方法	資料（40％）発表と討論（30％），終了後レポート（30％）
参考書 参考文献等	
学習相談 助言体制	学生個々の必要性に応じて質問に応じるなどの相談・支援を行う。
備考	実践看護学を主専攻とする学生は必ず履修する。

科 目 区 分	専門科目		聴 講	不可	
授 業 科 目 名	看護学演習（実践看護学展開論）		科目履修	不可	
科 目 番 号	MN00010	ク ラ ス 番 号	MN1		
授 業 形 式	演習	必修選択区分	選択必修		
開 講 時 期	1 年次・通年	単 位	8 単位 240 時間		
科 目 責 任 者	齋藤基	そ の 他			
担 当 教 員	行田智子 横山京子 田村文子 中西陽子 小川妙子 齋藤基 肥後すみ子 巴山玉蓮 河内美江 樋貝繁香 廣瀬規代美 大澤真奈美 原美弥子 飯田苗恵				
授 業 の 概 要	本研究科は、科学的根拠に基づく実践（Evidence-Based Practice：EBP）の実現に向けた看護学とその教育の充実・発展・革新に意義を見出すことのできる人材育成に必要な科目として、看護学演習（実践看護学展開論）を提供する。看護学演習（実践看護学展開論）を通し、学生は、関心領域の文献のなかから EBP に活用可能な研究成果を選択し、その検証方法を検討する。選択した研究成果の検証を通し、EBP に耐えうる研究成果を産出する意義、EBP に耐えうる研究成果の要件を考察する。学生は、自己の興味・関心に基づき担当教員を選択し、グループを形成する。授業は、形成されたグループ毎に展開する。教員は、看護技術学、生涯発達看護学（母胎期、乳幼児期・学童期、思春期、成人期、老年期）、地域健康看護学、看護政策管理学という各々が専門とする内容を織り込みながら担当グループの授業を展開する。				
学 科 目 的	国内外の看護学研究の現状の理解を前提とし、研究成果の検証を通し、科学的根拠に基づく実践（Evidence-Based Practice：EBP）に耐えうる研究成果の要件を理解する。				
学 科 目 標	1. 国内外の研究論文を精読し、関心領域の研究成果の産出状況を理解する。 2. 自己の問題現象に既存の研究成果を適用し、その活用可能性を検証する。 3. 1. 2. を通し、新たな研究成果を産出する必要性を述べる。				
授 業 の 内 容 と 方 法	回	授業内容	授業方法	事前・事後 学習（学習 課題）	担当
	1 ～ 15	海外文献の講読 海外の看護学研究を講読し、学術用語、研究方法、研究内容等、理解した内容に基づき資料を作成する。作成した資料に基づき学習内容を発表し、看護学研究の概念枠組みと研究方法論、今後、必要とされる看護学研究の観点から担当教員と討論を展開する。	発表・討論	海外文献の 精読・要 約・批評	学生 の 興味・関 心によ り担当 教員を 決定す る
	16 ～ 20	国内文献の講読 国内の看護学研究を講読し、学術用語、研究方法、研究内容等、理解した内容に基づき資料を作成する。作成した資料に基づき学習内容を発表し、看護学研究の概念枠組みと研究方法論、今後、必要とされる看護学研究の観点から担当教員と討論を展開する。	発表・討論	国内文献の 精読・要 約・批評	
	21	研究成果の活用可能性の検証(1) －文献検討に基づく検証内容の焦点化①	発表・討論 発表・討論	検証内容の 焦点化	
	22	研究成果の活用可能性の検証(2) －文献検討に基づく検証内容の焦点化②			
	23	研究成果の活用可能性の検証(3) －検証方法の検討①		検証方法の 検討	
	24	研究成果の活用可能性の検証(4) －検証方法の検討②			
25	研究成果の活用可能性の検証(5) －検証に向けた計画書の作成①	計画書の作 成			

	26	研究成果の活用可能性の検証(6) －検証に向けた計画書の作成②	発表・討論	計画書の作成
	27	研究成果の活用可能性の検証(7) －検証の実践①	演習	実践に向けた準備
	28	研究成果の活用可能性の検証(8) －検証の実践②		
	29	研究成果の活用可能性の検証(9) －検証結果の報告	発表・討論	検証結果の報告
	30	研究成果の活用可能性の検証(10) －検証過程・成果の評価	発表・討論	検証結果の報告・評価
■終了後レポートの課題『看護学演習（実践看護学展開論）を通して学んだこと』 文献検討、研究成果活用可能性の検証結果に基づき、看護実践の充実・発展・変革に向けた自己の研究課題を明確化する。				
評価方法	発表と討論（70%），終了後レポート（30%）			
参考書 参考文献等				
学習相談 助言体制	学生個々の必要性に応じて質問に応じるなどの相談・支援を行う。			
備考	実践看護学を主専攻とする学生は必ず履修する。			

科 目 区 分	専門科目		聴 講	可	
授 業 科 目 名	看護教育学Ⅰ（看護教育学の基礎知識）		科目履修	可	
科 目 番 号	MN00011	ク ラ ス 番 号	MN1		
授 業 形 式	演習・講義	必修選択区分	選択必修		
開 講 時 期	1年次・前期	単 位	2単位 60時間		
科 目 責 任 者	吉富美佐江	そ の 他			
担 当 教 員	吉富美佐江 松田安弘 山下暢子				
授 業 の 概 要	本研究科は、科学的根拠に基づく実践（Evidence-Based Practice：EBP）の実現に向けた看護学とその教育の充実・発展・革新に意義を見出すことのできる人材育成に必要な科目として、看護教育学Ⅰ（看護教育学の基礎知識）を提供する。科学的根拠に基づく実践（Evidence-Based Practice：EBP）の実現に向けては、科学的根拠に基づく看護学教育（EBNE：Evidence-Based Nursing Education）が必要不可欠である。学生は、看護教育学Ⅰ（看護教育学の基礎知識）を通し、EBNEを展開するために必要な普遍的要素として、看護教育学の基礎知識を理解する。看護基礎教育・卒後教育・継続教育の前提となる看護教育学の理論に加え、関連学問領域の理論・主要概念を学習する。また、質の高い看護学教育の実現に向け、看護教育学を充実・発展・革新させていくことの意義を理解する。 〔オムニバス方式／全15回〕 （吉富美佐江／7回） 課題図書『看護教育学』の講読演習を展開し、看護教育学の歴史、看護教育制度、看護教育課程、看護学教育組織運営論に関わる基礎知識を提供する。また、学生の発表内容を査定し、補完すべき知識を提供する。 （松田安弘／4回） 課題図書『看護教育学』の講読演習を展開し、看護学教育評価論、看護継続教育論に関わる基礎知識を提供する。また、学生の発表内容を査定し、補完すべき知識を提供する。 （山下暢子／4回） 課題図書『看護教育学』の講読演習を展開し、看護学教育授業展開論に関わる基礎知識を提供する。また、学生の発表内容を査定し、補完すべき知識を提供する。				
学 科 目 的	看護基礎教育・卒後教育・継続教育の前提となる諸理論と主要概念、関連概念を学習し、多様な教育現象への適用を通し、学習成果として理論・概念への理解を深める。				
学 科 目 標	1. 看護教育学の基礎知識を用いて、過去に遭遇した看護教育に関わる現象を説明する。 2. 1を通して、看護教育学の充実・発展・革新に向けた課題を述べる。				
授 業 の 内 容 と 方 法	回	授業内容	授業方法	事前・事後 学習（学習 課題）	担当
	1	看護教育学創造への道(1) ：看護教育学への模索	発表・講義	課 題 図 書 『看護教育 学』の 精読・要約	吉富
	2	看護教育学創造への道(2) ：看護教育学研究の成果と蓄積			
	3	看護教育制度論(1) ：看護教育制度の成り立ち			
	4	看護教育制度論(2) ：看護教育制度の特徴、看護教育制度と学位			
	5	看護学教育課程論(1) ：看護学教育課程の体系化、教育目的・目標 の設定、教育内容の選定			
	6	看護学教育課程論(2) ：教育内容の組織化、教育内容の提供、教育 評価			

	7	看護学教育組織運営論 ：看護学教育組織運営論としての体系化 看護学教育組織運営論からみた看護学教育の諸問題	発表・講義		吉富
	8	看護学教育授業展開論(1) ：看護学教育における授業展開を支える理論・知識			山下
	9	看護学教育授業展開論(2) ：看護学教育における授業展開			
	10	看護学教育授業展開論(3) ：対象理解に基づく看護学実習展開			
	11	看護学教育授業展開論(4) ：教授活動理解に基づく看護学実習展開			
	12	看護学教育評価論(1) ：教育評価			松田
	13	看護学教育評価論(2) ：看護学教育における授業評価の実際，大学の自己点検・評価の背景			
	14	看護継続教育論(1) ：看護継続教育の領域、関連用語及び概念 看護継続教育の対象と学習ニード 看護職者が所属する施設の教育としての「院内教育」			
	15	看護継続教育論(2) ：看護職者が所属する施設の教育としての「ファカルティ・ディベロップメント (FD)」			
※終了後レポートの課題『看護教育学Ⅰ』を通して学んだこと 15回の授業を通して得た知識に基づき、学生個々が過去に遭遇した「看護教育」にかかわる問題を明確化し、それを解決するために必要な課題を述べる。					
評価方法	発表内容・方法・態度（70%），終了後レポート（30%）				
参考書 参考文献等	杉森みど里，舟島なをみ：看護教育学 第4版増補版，医学書院，2010.				
学習相談 助言体制	学生個々の必要性に応じて質問に応じるなどの相談・支援を行う。				
備考	看護教育学を主専攻とする学生は必ず履修する。				

科 目 区 分	専門科目		聴 講	可	
授 業 科 目 名	看護教育学Ⅱ（看護教育学研究）		科目履修	可	
科 目 番 号	MN00012	ク ラ ス 番 号	MN1		
授 業 形 式	演習	必修選択区分	選択必修		
開 講 時 期	1年次・後期	単 位	2単位 60時間		
科 目 責 任 者	吉富美佐江	そ の 他			
担 当 教 員	吉富美佐江 松田安弘 山下暢子				
授 業 の 概 要	本研究科は、科学的根拠に基づく実践（Evidence-Based Practice：EBP）の実現に向けた看護学とその教育の充実・発展・革新に意義を見出すことのできる人材育成に必要な科目として、看護教育学Ⅱ（看護教育学研究）を提供する。科学的根拠に基づく実践（Evidence-Based Practice：EBP）の実現に向けては、科学的根拠に基づく看護学教育（EBNE：Evidence-Based Nursing Education）が必要不可欠である。看護教育学Ⅱ（看護教育学研究）を通し、学生は、看護教育学Ⅰ（看護教育学の基礎知識）で得た知識を前提とし、EBPの実現に向け、あらたに産出する必要がある看護教育学の理論・知識・技術を模索する。具体的には、特別研究のテーマとの関連から EBNE に基づく看護学教育に活用可能な海外の看護学研究を探索・精読し、研究批評を通して今後あらたに必要な看護教育学研究を焦点化する。看護教育学Ⅱにおいて、教員各々は、特別研究指導を担当する学生を対象に授業を提供する。				
学 科 目 的	看護基礎教育・卒後教育・継続教育の前提となる諸理論と主要概念を活用し、教育現象を分析・評価し、看護学教育の質向上という観点からそこに存在する問題を明らかにするとともに、その問題を解決するために既存の看護学教育研究の成果を探索し、活用する。これらを通して、今後必要となる看護教育学研究について展望する。				
学 科 目 標	1. 海外の看護学教育研究を選択し、批判的に精読する。 2. 選択した看護学教育研究のデザイン、概念枠組み及び研究方法論などを検討し、看護教育学研究を遂行するために必要な知識を修得する。 3. 1.2.を通して、看護教育学発展に向けた課題を論述する。 4. 国際学会への参加の基盤となる英語力を修得する。				
授業の内容と方法	講読した海外の看護学研究に用いられている学術用語、研究方法、研究内容等を学習成果として資料に要約し、発表する。看護学研究の概念枠組みと研究方法論、今後、必要とされる看護学研究の観点から討論を展開する。				
	回	授業内容	授業方法	事前・事後 学習（学習 課題）	担当
	1	講読文献の理解、研究批評(1)	発表・討論	特別研究と 関連づけて 文 献 を 選 択・精読す る	特 別 研 究 指 導 を 担 当 す る 教 員
	2	講読文献の理解、研究批評(2)			
	3	講読文献の理解、研究批評(3)			
	4	講読文献の理解、研究批評(4)			
	5	講読文献の理解、研究批評(5)			
	6	講読文献の理解、研究批評(6)			
	7	講読文献の理解、研究批評(7)			
	8	講読文献の理解、研究批評(8)			
	9	講読文献の理解、研究批評(9)			
	10	講読文献の理解、研究批評(10)			
	11	講読文献の理解、研究批評(11)			
	12	講読文献の理解、研究批評(12)			
	13	講読文献の理解、研究批評(13)			
	14	講読文献の理解、研究批評(14)			
	15	講読文献の理解、研究批評(15)			
■終了後レポートの課題『看護教育学Ⅱを通して学んだこと』 15回を通して講読した文献を再検討し、研究批評の内容に基づき、今後必要となる看護学研究の特徴を述べる。					

評価方法	発表内容・方法・態度（70%），終了後レポート（30%）
参考書 参考文献等	杉森みど里，舟島なをみ：看護教育学 第4版，医学書院，2006. 舟島なをみ：看護教育学研究 第2版，医学書院，2010. 舟島なをみ：質的研究への挑戦，第2版，医学書院，2007.
学習相談 助言体制	学生個々の必要性に応じて質問に応じるなどの相談・支援を行う。
備考	看護教育学を主専攻とする学生は必ず履修する。

科 目 区 分	専門科目		聴 講	可																				
授 業 科 目 名	看護学演習（看護教育学）		科目履修	可																				
科 目 番 号	MN00013	ク ラ ス 番 号	MN1																					
授 業 形 式	演習	必修選択区分	選択必修																					
開 講 時 期	1 年次・通年	単 位	8 単位 240 時間																					
科 目 責 任 者	松田安弘	そ の 他																						
担 当 教 員	松田安弘 吉富美佐江 山下暢子																							
授 業 の 概 要	本研究科は、高等教育としての看護学教育の特徴と課題に精通し、研究成果の教材化・授業計画案作成・教授方略等の授業展開に必要な知識・技術、その基盤となる看護教育評価・看護学教育カリキュラム編成の知識・技術、教育倫理に関する知識・技術を駆使し、質の高い教育を展開することのできる人材育成に必要な科目として、看護学演習（看護教育学）を提供する。学生は、看護学演習（看護教育学）を通し、科学的根拠に基づく看護学教育（EBNE：Evidence-Based Nursing Education）のうち、医療機関・教育機関における教育コーディネーターとしての役割と機能を発揮するために必要な能力を獲得する。具体的には、国内外の看護継続教育に関する諸理論を学習し、成人を対象とした教育の特徴を理解する。また、看護学教育に関する国内外の研究論文の検索・入手・精読を体験し、研究批評を通して論文の内容を理解する。さらに、スタッフ・ディベロップメント（SD）コース、ファカルティ・ディベロップメント（FD）コースにわかれ、学習した諸理論を活用し、SD・FDプログラム立案過程を実践する。																							
学 科 目 的	1. 国内外の看護継続教育に関する諸理論を精読し、SD プログラム、FD プログラムの立案・実施・評価の現状を理解する。 2. 研究論文を精読するための基礎能力を獲得する。 3. 1. で精読した文献を活用し、SD・FDに必要な知識・技術を習得し、医療機関・教育機関における教育コーディネーターとしての能力を獲得する。																							
学 科 目 標	目的 1 1. 看護継続教育を展開するために必要な基礎知識を修得する。 2. 根拠に基づき看護継続教育を展開するための自己の課題を述べる。 目的 2 1. 国内の研究論文を精読するために必要な知識・技術を修得する。 2. 海外の研究論文を精読するために必要な知識・技術を修得する。 目的 3 1. SD コース・FD コースのいずれかを選択し、仮想機関の SD プログラム、あるいは、FD プログラムを立案する。 2. 立案した SD・FD プログラムの 1 研修の模擬授業を行う。 3. 教育コーディネーターとしての SD・FD プログラム展開上の課題を述べる。																							
授業の内容と方法	〔目的 1〕 前期セメスター <table><tr><td>回</td><td>授業内容</td><td>授業方法</td><td>事前・事後学習 (学習課題)</td><td>担当</td></tr><tr><td>1～5</td><td>課題図書『成人教育の現代的実践』</td><td>発表・講義</td><td>『成人教育の現代的実践』の精読・要約</td><td>吉富</td></tr><tr><td>6～10</td><td>課題図書『成人教育の意味』</td><td>発表・講義</td><td>『成人教育の意味』の精読・要約</td><td>吉富</td></tr><tr><td>11～15</td><td>課題図書『院内教育プログラムの立案・実施・評価』</td><td>発表・講義</td><td>『院内教育プログラムの立案・実施・評価』の精読・要約</td><td>松田</td></tr></table> 〔目的 2〕 前期セメスター 担当：松田、吉富、山下 ■国内文献：事前学習として、自己の興味・関心に基づき、医学中央雑誌を用いて検索し、国内の研究論文を入手、精読し、批評する。選択した論文を事前に提出する。授業当日は、作成した資料を用いて、論文の概要を発表し、研究指導教員及び研究指導補助教員から助言を得る。 ■海外文献：事前学習として、自己の興味・関心に基づき、CINAHL を用いて検索し、海外の研究論文を入手、精読し、批評する。選択した論文を事前に提出する。授業当日は、作成した資料を用いて、論文の概要を発表し、研究指導教員及び研究指導補助教員から助言を得る。				回	授業内容	授業方法	事前・事後学習 (学習課題)	担当	1～5	課題図書『成人教育の現代的実践』	発表・講義	『成人教育の現代的実践』の精読・要約	吉富	6～10	課題図書『成人教育の意味』	発表・講義	『成人教育の意味』の精読・要約	吉富	11～15	課題図書『院内教育プログラムの立案・実施・評価』	発表・講義	『院内教育プログラムの立案・実施・評価』の精読・要約	松田
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習 (学習課題)	担当																				
1～5	課題図書『成人教育の現代的実践』	発表・講義	『成人教育の現代的実践』の精読・要約	吉富																				
6～10	課題図書『成人教育の意味』	発表・講義	『成人教育の意味』の精読・要約	吉富																				
11～15	課題図書『院内教育プログラムの立案・実施・評価』	発表・講義	『院内教育プログラムの立案・実施・評価』の精読・要約	松田																				

	〔目的 3〕 後期セメスター SD コース・FD コースのいずれかを選択し、グループを編成する。 ■SD コースは病院の看護職者の教育ニード・学習ニードを診断し、その結果に基づく、プログラムを立案し、1 研修を模擬授業として展開する。 ■FD コースは病院の看護職者の教育ニード・学習ニードを診断し、その結果に基づく、プログラムを立案し、1 研修を模擬授業として展開する。				
	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1・2	グループの編成，役割分担，仮想機関の背景について討議	グループ ワーク	SD・FD プログラム立案に必要な基礎知識の復習	松田 吉富
	3・4	仮想機関の現状把握と看護職者の現状把握－仮想機関の理念、仮想機関の概要、仮想機関における SD・FD の目的、育成したい看護職者・看護学教員の明確化・成文化／仮説機関に所属する看護職者の特徴の明確化・成文化			
	5・6	経過報告	発表・討議		
	7・8	看護職者・看護学教員の教育ニード・学習ニードのデータ分析(1)	グループ ワーク	学習ニード・教育ニードの分析・診断に必要な基礎知識の復習	
	9・10	看護職者・看護学教員の教育ニード・学習ニードのデータ分析(2)			
	11・12	看護職者・看護学教員の教育ニード・学習ニードのデータ分析(3)			
	13・14	看護職者・看護学教員の教育ニード・学習ニードの診断(1)			
	15・16	看護職者・看護学教員の教育ニード・学習ニードの診断(2)			
	17・18	経過報告	発表・討議		
	19・20	SD・FD プログラムの編成(1)	グループ ワーク	診断結果に基づくプログラム立案に必要な基礎知識の復習	
	21・22	SD・FD プログラムの編成(2)			
	23・24	授業設計(1)：目標の分析			
	25・26	授業設計(2)：授業案の作成			
	27・28	授業設計(3)：教材作成と模擬授業		授業設計に必要な基礎知識の復習	
	29・30	成果発表と討議	発表・討議		
	■終了後レポートの課題『看護学演習（看護教育学）を通して学んだこと』 保健医療専門職者として教育的機能を果たすという観点から、自己の課題を論述する。				
評価方法	授業への参加状況（20%），発表内容・方法・態度（40%），終了後レポート（40%）				
参考文献等	・M. ノールズ：成人教育の現代的実践―ペタゴジーからアンドラゴジーへ，鳳書房，2002. ・エデュアード・リンデマン：成人教育の意味，学文社，1996. ・舟島なをみ：院内教育プログラムの立案・実施・評価「日本型看護職者キャリア・ディベロップメント支援システム」の活用，医学書院，2007. ・杉森みどり，舟島なをみ：看護教育学 第4版増補版，2010. ・Polit, D. F. & Beck, C. T. (近藤潤子監訳)；看護研究―原理と方法―，医学書院，2010. ・舟島なをみ：看護教育学研究―発見・創造・証明の過程―第2版，医学書院，2010.				
学習相談 助言体制	学生個々の必要性に応じて質問に応じるなどの相談・支援を行う。				
備考	看護教育学を主専攻とする学生は必ず履修する。				

科 目 区 分	特別研究		聴 講	不可
授 業 科 目 名	特別研究		科目履修	不可
科 目 番 号	MN00014	ク ラ ス 番 号	MN1	
授 業 形 式	演習	必修選択区分	必修	
開 講 時 期	1・2年次, 通年	単 位	12 単位 360 時間	
科目責任者	小川妙子	そ の 他		
担 当 教 員	肥後すみ子 行田智子 河内美江 横山京子 田村文子 中西陽子 小川妙子 廣瀬規代 美齋藤基 大澤真奈美 原美弥子 飯田苗恵 巴山玉蓮 松田安弘 山下暢子 吉富美佐江 樋貝繁香			
授 業 の 概 要	本研究科は、科学的根拠に基づく実践（Evidence-Based Practice：EBP）の実現に向けた看護学とその教育の充実・発展・革新に資する研究成果を産出することのできる人材育成に必要な科目として、特別研究を提供する。特別研究を通し、学生は、質の高い看護実践、あるいは、質の高い看護学教育の提供という観点から、EBP 及び科学的根拠に基づく看護学教育（EBNE：Evidence-Based Nursing Education）の根拠となりうる研究成果の産出を試みる。具体的には、個々の興味・関心に従い累積した学習成果を活用し、研究課題の焦点化、研究方法論の決定を行い、研究計画書を作成する。研究計画に基づくデータ収集・分析、論文作成、発表、評価に至るまでの一連の研究過程を通し、看護学研究の成果を産出・累積する意義を認めるとともに看護専門職としての研究的態度を修得する。 【実践看護学】 （肥後すみ子） 実践看護学領域に関する研究課題を選択した学生のうち、看護技術に関わる研究課題を持つ学生の特別研究指導を行う。 ■主な研究課題 (1) 看護技術におけるエビデンスの検証に関する研究 (2) 入浴が生体の循環動態に及ぼす影響に関する研究 (3) 初年次教育に関する研究 （行田智子） 実践看護学領域の研究課題を選択した学生のうち、妊婦・褥婦への看護、育児に関わる研究課題を持つ学生の特別研究指導を行う。 ■主な研究課題 (1) 親となる過程を促す妊娠期からの支援に関する研究 (2) 母親意識・対児感情の発達過程と妊娠期の援助 (3) 育児期の家族への支援に関する研究 （横山京子） 実践看護学領域の研究課題を選択した学生のうち、小児期にある人々への看護、小児看護学教育に関わる研究課題を持つ学生の特別研究指導を行う。 ■主な研究課題 (1) 小児看護学教育に関する研究 (2) 小児医療に携わる看護師に関する研究 (3) 看護基礎教育課程に編入学した学生の学習経験に関する研究 （田村文子） 実践看護学領域の研究課題を選択した学生のうち、思春期・青年期にある人々、精神障害を持つ人々への看護に関わる研究課題を持つ学生の特別研究指導を行う。 ■主な研究課題 (1) 精神障害者の地域支援に関する研究 (2) 精神障害者をかかえる家族の障害受容に関する研究 (3) 精神看護学教育に関する研究 （中西陽子） 実践看護学領域の研究課題を選択した学生のうち、がん及び他疾患の急性期・慢性期・終末期にある人々とその家族への看護に関わる研究課題を持つ学生の特別研究指導を行う。 ■主な研究課題 (1) 慢性疾患患者の患者教育に関する研究 (2) がん終末期患者および家族の支援に関する研究 (3) 遺族ケアに関する研究			

	(小川妙子) 実践看護学に関する研究課題を選択した学生のうち、老年期にある人々への看護、老年看護学教育に関わる研究課題を持つ学生の特別研究指導を行う。 ■主な研究課題 (1) 高齢患者の生活の質に関する研究 (2) 高齢者看護における倫理的課題 (3) 老年看護学教育に関する研究 (齋藤 基) 実践看護学領域の研究課題を選択した学生のうち、地域保健活動、在宅看護に関わる研究課題を持つ学生の特別研究指導を行う。 ■主な研究課題 (1) 家族介護者の介護行動に関する研究 (2) 地域心臓疾患高齢者に対する介護予防に関する研究 (3) 群馬県内の地域看護活動における実践課題に関する研究 (巴山玉蓮) 実践看護学に関する研究課題を選択した学生のうち、看護政策・管理に関わる研究課題を持つ学生の特別研究指導を行う。 ■主な研究課題 (1) 看護職の意思決定に関する研究 (2) 看護職のワーク・ライフ・バランスに関する研究 (3) 潜在看護師の再就業に関する研究 【看護教育学】 (松田安弘) 看護教育学領域の研究課題を選択した学生のうち、看護基礎・継続教育、男子看護学生・男性看護師に関わる研究課題を持つ学生の特別研究指導を行う。 ■主な研究課題 (1) 看護における少数者に関する研究 (2) 男性看護師の経験に関する研究 (3) 男子看護学生に関する研究 (4) 院内教育に関する研究 (5) 教授活動に関する研究 (山下暢子) 看護教育学領域の研究課題を選択した学生のうち、看護学実習中の学生に関わる研究課題を持つ学生の特別研究指導を行う。 ■主な研究課題 (1) 看護学実習中の学習活動に関する研究 (2) 看護学実習中の教授活動に関する研究 (吉富美佐江) 看護教育学領域の研究課題を選択した学生のうち、新人看護師教育、看護学実習中の教授活動に関わる研究課題を持つ学生の特別研究指導を行う。 ■主な研究課題 (1) 新人看護師教育に関する研究 (2) 新人看護師を指導するプリセプターに関する研究 (3) 看護学実習中の教授活動に関する研究
--	---

学 科 目 的	研究課題の焦点化、データの収集・分析、論文作成、発表、評価に至る一連の研究過程を経験する。				
学 科 目 標	1. 焦点化した研究課題の背景を述べる。 2. 研究目的・目標に合致した研究方法論を選択する。 3. 文献検討の結果に基づき、精度の高い研究計画書を作成する。 4. 既存の研究方法論を正確に適用し、データを収集・分析する。 5. 倫理的配慮に基づきデータを収集・分析する。 6. 構成要素に沿って研究論文を作成する。 7. 研究の概要を簡潔に説明する。 8. 看護専門職に必要な研究的態度を述べる。 9. 看護学研究の成果を産出・累積する意義を述べる。				
授業の内容と方法	15回／2年のゼミ形式の授業を基本に論文指導を行う。				
	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）	担当
	1	【1年次前期】 ①関連文献の精読を通して自己の興味・関心を焦点化し、研究課題を決定する。	ゼミ	研究課題の明確化	研究指導教員及び研究指導補助教員
	2		ゼミ	文献検討	
	3	【1年次後期】 ②研究課題、研究方法論に関わる文献検討の結果に基づき、研究計画書を完成させる。 ③研究科委員会が指名する主査1名、副査2名による研究計画書の審査を受ける。 ④人を対象とする研究の場合は、倫理委員会に研究計画書を提出し、承認を得る。 ⑤倫理委員会の承認後、研究計画書に基づきデータを収集する。	ゼミ	文献検討	
	4		ゼミ	研究計画書の作成	
	5		ゼミ	研究計画書の作成	
	6		ゼミ	研究計画書審査書類作成	
	7		ゼミ	倫理審査書類作成	
	8	【2年次前期】 ⑥研究計画書に基づき、データを収集・分析する。 ⑦データ収集・分析の適切性を評価する。 ⑧結果及び考察の論述を行う。	ゼミ	データ収集	
	9		ゼミ	データ収集	
	10		ゼミ	データ分析	
	11	【2年次後期】 ⑨研究指導教員の承認を得て、所定の書類とともに修士論文及び論文要旨を研究科長に提出する。 ⑩研究科委員会が指名する主査1名、副査2名による論文審査及び口頭試問を受ける。 ⑪最終試験として論文発表会の発表及び質疑応答に必要な準備を行う。 ⑫規定時間内に論文発表及び質疑応答を行う。	ゼミ	データ分析	
	12		ゼミ	研究結果の論述	
	13		ゼミ	考察の論述	
	14		ゼミ	論文審査準備	
	15		ゼミ	発表準備	
評 価 方 法	研究計画書審査，論文審査，論文発表及び質疑応答				
参 考 書 参 考 文 献 等					
学 習 相 談 助 言 体 制	・研究指導教員及び研究指導補助教員は、ゼミ形式の授業を基本に論文指導を行う、学生の必要に応じて個別指導を行う。 ・研究指導教員は、必要性に応じて、共通科目の担当教員、あるいは、研究課題に関連する分野の専門家より、研究遂行に向けた助言を受けられるよう支援する。				
備 考	【14条適用の学生が職場においてデータを収集する場合の倫理的配慮】 1. 職場である保健医療機関、教育機関の責任者よりデータ収集許可文書を得る。 2. 1の文書を含め、研究科倫理委員会に必要な書類を提出し、研究計画遂行の承認を得る。				